７．北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向関連（北陸）	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月前半は、春節で多くの中華系の客が来店した。後半は大雪の影響が心配されたが、大学生を中心とした若い世代の来店が多かった。高額品が売れているというよりも、来客数が増えて売上が伸びている。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車、中古車の販売量は３か月前と比べて増加している。ただし、客の購入に対する慎重な様子は変わっていない。
	○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・３か月前は売上が前年を下回っていたが、直近では上回っている。
	○	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・２月は寒波が２度あったことにより地元客の外出が減り、また、県外からの観光客や出張者のキャンセル等も増えたため、来客数が減っている。この後は３月の卒業シーズンに向けて、外食機会も増えるとみている。
	○	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・能登半島地震の震災復興需要の減少で、稼働率は前年より低下しているが、インバウンド需要により前々年との比較では稼働率、客室単価共に上昇している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・２月は雪の日が多く積雪もあり、自家用車の使用を避けてタクシー利用をする人が多く、忙しい。
	○	競輪場（職員）	販売量の動き	・前月に引き続き、売上が増加している。
	○	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・積雪が多く、客足への悪影響を心配したが、思いの外、客の動きが活発である。足元の悪さによるマインドの低下よりもインフレに対する懸念が上回った印象を受ける。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月は２度の寒波と、それに伴い公共交通機関の運休もあったため、全体的には例年の同時期以上に商店街へ出掛ける人が少なく、平日は閑散としている。週末や百貨店のイベント時においても駐車場の空きがみられ、各店舗の売上は伸びていない。ただし、そのなかでも米国有力紙による当市の紹介記事のお陰で、観光客からの問合せが多くなっている。
	□	一般小売店［書籍］（従業員）	お客様の様子	・買い控えをしている客が見受けられ、全体的に変化はない。
	□	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・２月は雪の影響で売上が減少しており、行政の景気対策事業があるものの、低迷している。物価高騰で商品単価が上がっているため、客単価もやや伸長しているが、購買率が継続して低下している。１月はやや改善した衣料品も、低気温が続いているにもかかわらず、冬物、春物共に需要が増えず苦戦している。人気のチョコレートは雪の影響を受けながらも善戦したが、日常食料品が低迷している。雪の影響以外でも低調が続いている。
	□	スーパー（店長）	お客様の様子	・物価高騰の影響で商品単価が上がっている。高単価な商材の動きは回復しておらず、客の節約傾向がみられる。
	□	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・生鮮食品、加工食品、米などの値上げが続くなかで販売量が顕著に落ちているが、客の来店頻度などは落ち着きを見せつつある。必要な物を必要な分しか購入しないといった傾向がみえる。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・春物の売行きが伸びることを期待していたが、２度の寒波で客足が遠のき、大きく売上を落としている。
	□	家電量販店（本部）	来客数の動き	・通常は降雪が落ち着くと来客数が増加するが、今年は雪が長引いたため、累計では厳しい状況である。
	□	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・２月の２度にわたる積雪により来客数は例年と比べて少ないようだが、売上は前年をやや上回る状況で推移している。
	□	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・大雪の影響で客足が遠のいている。

□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・週末の予約は良いが、平日の集客が弱い。特にグループ客、団体客が新型コロナウイルス感染症発生前と比べてほぼ半減している。
□	観光型旅館（経理）	それ以外	・１年前の能登半島地震による損害のため、休業状態が継続している。再開までにかなりの期間を要する見込みである。
□	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊部門は国内、インバウンド共に弱い。宴会部門は売上、件数共に回復しているが、食堂部門は寒波で来客数が減少し、全体として景気は変わらない。
□	通信会社（職員）	お客様の様子	・客からの問合せ内容に変化がない。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・通信、放送サービス共に契約数が前年同期を下回っている。解約数も前年同期と比べて多くなっている。
□	通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約数等に大きな変動はみられない。
□	その他レジャー施設［スポーツクラブ］（総支配人）	お客様の様子	・大雪の影響が来客数に出ている。利用体験人数、入会人数共に一向に増えない。
□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・建築資材の高騰や職人不足が続いており、景気の先行きに変化がみられない。
▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・寒波の影響といってしまえばそれまでだが、街中も郊外も、とにかく売場に客の姿がない。特に衣料関連は閑散としている。天候のせいばかりではなさそうである。
▲	一般小売店［精肉］（店長）	販売量の動き	・値上げ等の動きが活発になっているため、豚肉の動きは良いが牛肉の動きが少し鈍い。牛肉の方が単価が高いため、客単価が下落している。
▲	一般小売店［事務用品］（店長）	それ以外	・天候が悪く、来客数が少ない。
▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・２月は最強最長寒波の影響で、月のうち15日間は来客数が大幅に減り、売上が低迷している。バレンタインデー催事は過去最高売上を更新するなど好調な面もあったが、衣料品は春物中心の展開であったため、実需対応ができず苦戦している。
▲	百貨店（販売促進担当）	それ以外	・２月中旬と下旬の大雪が、ホール開催のバレンタインデー催事や物産展の来客数に大きく影響した。しかし、自分への御褒美需要やインバウンドによる購入などのプラス要素もあり、企画自体は前年並みの売上となり、比較的ダメージは少なかった。雪と寒さの影響により春物の衣料品は苦戦し、全体では前年割れである。
▲	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・米の価格高騰などの物価高により、買上点数が減少している。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・インフレによる物価高やエネルギーの価格上昇は止まらず、更に金利も上昇し、消費が抑えられている。
▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・商品を手に取って広げたり、試着したりするが、検討で終わる客が増えている。衣料に金を回す余裕がないのではないか。
▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・物価高が止まらないため、景気はやや悪くなっている。
▲	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・今月は特に天候の影響が大きかった。週末に２度の大雪があり、来客数に響いた。買上点数も減少傾向で、天候だけでなく、最近の市況にも要因があると考える。
▲	その他小売［ショッピングセンター］（統括）	それ以外	・記録的な寒波により降雪が続き、営業そのものに影響が出ている。
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・２月前半は気象庁により10年に１度の大雪との発表があり、予約のキャンセルが相次いだが、平野部はそれほど雪の影響がなく、大きなダメージを受けた。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・豪雪の影響で公共交通が麻ひし、どこにも動けない状態のため、キャンセルが相次いでいる。

	▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・北陸地方は２度にわたり強烈な寒波に見舞われ、客足が遠のいた。来客数が10％近く落ち込み、それに伴い売上も大きく減少している。
	▲	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・施工単価及び資材価格の高騰により建物単価が上がっており、顧客層が狭くなっている。
	×	コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・２度の大雪の影響で来客数が激減している。
	×	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・大雪の影響で客足が遠のいている。
	×	その他専門店［酒］（経営者）	販売量の動き	・とにかく商材が動かない。いろいろな物が値上げされていることなどが影響していると考える。
	×	スナック（経営者）	来客数の動き	・前年同月比で７割の売上となっている。天候に左右されやすく、足元の悪さや寒さのため客は外出を控えている。また、物価高によりサラリーマンの足が遠のいている。しかし、居酒屋などは大変忙しいと聞く。
	×	テーマパーク（役員）	来客数の動き	・２月は２度の寒波の影響で予定の見直しやキャンセルの影響が大きく、３か月前と比較して景気は悪くなっている。
企業動向関連 （北陸）	◎	－	－	－
	○	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売量が増えてきている。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共土木工事を主とする建設会社である当社では、２月は除雪作業による売上とその利益、及び大手舗装会社からの下請受注工事の完成による売上を、月次決算に反映することができている。その結果６月末決算予想も上振れする見通しである。
	○	金融業（融資担当）	受注価格や販売価格の動き	・幅広い業種において、売上の増加、利益率の改善がみられる。また、能登半島地震復興に係る業者の資金需要が増加している。
	○	税理士（所長）	取引先の様子	・小規模事業であるほど、人手不足は深刻である。また、確定申告で個人事業主の１年間の決算をみているが、ほとんどの顧問先で利益を確保できている。
	□	食料品製造業（経営企画）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震で被災してから１年余りが経過しているが、一旦失われた受注量は戻らず、いまだ震災前のレベルには程遠い状況である。
	□	繊維工業（総括）	受注量や販売量の動き	・生産高は能登半島地震発災前のレベルに回復しているものの、全体としては、依然として盛り上がりに欠ける展開が続いている。
	□	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・人材の採用単価の上昇やベースアップなどの対応により、人件費が増加しているものの、なかなか簡単には価格に転嫁できていない。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・目先の受注動向は一部を除き増加傾向がみられず、顧客からの今後の発注予定情報にも目立った増加傾向はみられない。また、先々の動向について聞き込みを行っても、芳しい情報はなく、しばらくは現状維持が続くと考える。
	□	輸送業（管理会計担当）	受注量や販売量の動き	・企業間物流の物量に大きな変化がない。
	□	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・客からの問合せが少ない。特に個人客の活発な話がない。
	□	司法書士	取引先の様子	・令和６年11月、12月決算の決算書をみると、売上は前年度を上回るが、経費の増加で利益は減少している企業が多い。
	▲	＊	＊	＊
	×	－	－	－
雇用関連 （北陸）	◎	－	－	－
	○	＊	＊	＊
	□	人材派遣会社（役員）	採用者数の動き	・派遣依頼数は高い水準を維持しているものの、派遣登録者の確保が難しい、という状況に変化はない。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・物価上昇や人手不足のため、賃金を引き上げる企業が出ているが、多くはない。

	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は約２倍で高止まりとなっているが、原材料費、光熱費、燃料費の高騰や最低賃金の引上げ等、中小企業を中心に企業環境が厳しくなっており、事業主都合で退職した求職者が増加している。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・人手不足、不人気の業界は常に募集しているものの、人が集まらずマッチングしていない状況である。また、高齢者の求人が増えているが、これにも人が集まっていない。
	▲	－	－	－
	×	－	－	－